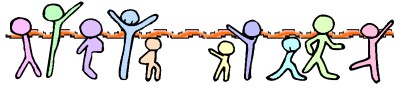


# ぼうさい



発行 平成22年12月20日 第7号  
NPO セーフティネット ぼうさい  
〒948-0003  
十日町市本町 6-3  
連絡先(代表 尾身誠司)  
電話 025-752-7353  
FAX 025-750-3670

E-mail [tbk119@jeans.ocn.ne.jp](mailto:tbk119@jeans.ocn.ne.jp)

## 防災の原点 尾身誠司

防災の原点「防災」とは、改めて問うとなんでしょう。1. 災害から身をまもる。2. 災害に合わないようにする。3. 災害に合っても被害を少なくする。簡単に言ったらそうなるでしょう。「災害」とは一般的には「自然災害」をさします。ですから人為的に起こる「火災、交通事故、病気等」は除いて良いでしょう。「自然災害」もある程度予測できる「台風、水害、大雪、雷、竜巻」など近年の予報技術は人工衛星のお陰で素晴らしく進歩しました。反面地球温暖化によるものが異常気象が続いています。そのため「想定外」の事態が発生し尊い命が失われているのです。特に「地震」は「予測」もできません。たとえできたとしても何もできないのです。ではどうする。「備え」しかありません。

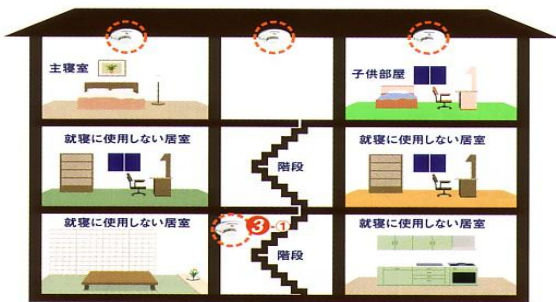
起こりうる「被害」を少なくする。「減災」です。そのために1. 自分(家族)の命は自分で守る。2. 地域は地域で守る。これが言われているわけです。

十日町市は自主防災組織の設置はほぼ完了しました。今後防災組織のスキルアップを図るため「自主防災組織個別支援事業」を展開し今年度は初めて「地域防災マップづくり」ということでDIG(図上訓練)を通じ「安心・安全な地域づくり」の場を提供し実施しています。今年度は4会場ほど実施しました。率直に言って「これが防災の原点だ」と感じています。地道な活動ですが子供からお年寄りまで全員参加できる「地域防災マップづくり」の成果を称賛したいと思えます。NPOの会員の皆さんが本心に熱心に指導してくれ全員参加の「防災ワークショップ」

は「自助・共助」を同時に考えさせてくれる「防災」だと確信しております。

今日町市では市民活動を支援する「中間支援組織」を立ち上げるべく準備中です。私たちNPOは防災に関し「中間支援組織」としての任を十分果たせると考えております。地震を体験した十日町市から「防災の原点」を発信できればお世話になった全国の皆様に恩返しをすることができるとも思いません。





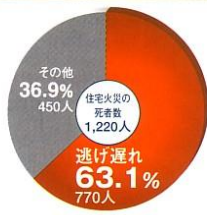
イヤレスが主流になっていきます。また、価格のことで恐縮ですが単体の器具に比較して2倍強になります。1軒に4台設置したとした場合1日100円(10年として)で済みます。自分と家族を守ってくれるものです。それくらいの投資は必要ではないかと思えます。

夫とか、一度も出したことがないから必要ないといわれることがあります。しかし、もし火災となれば自分の家はもちろん隣家の方にも大変迷惑になります。消防署や消防団にも世話をかけることになります。そうならないために早めの設置と火の用心をお願いします。

- ① 寝室
- ② 階段

- ③ 3階建て以上の場合
- 上記①②の他に2つ下の階の階段③
- ※ 寝室が1階(避難階)の場合
- は最も上階の階段

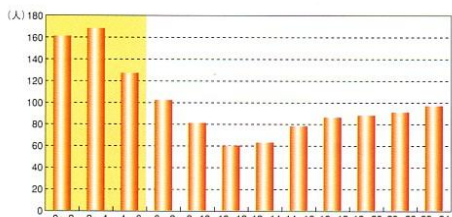
### 住宅火災の犠牲者は… 6割以上が逃げ遅れ



●住宅火災の死に至った経過別死者発生状況(放火自殺者等を除く)(平成17年中)

### 気づきにくい深夜に集中

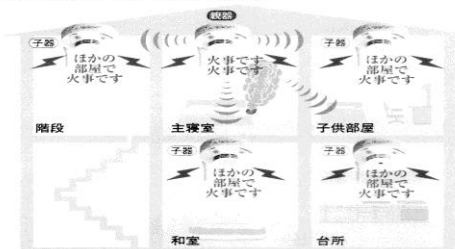
●住宅火災における時間帯別死者数(放火自殺者等を除く)(平成17年中)



(出典:平成18年版消防白書)

### ワイヤレス連動で、住戸全域に火災をお知らせ。

火災を検知すると警報し、電波を送信。他の部屋の警報器も連動してお知らせ。警報メッセージで発報元がわかります。



●警報連動時、どれか1台の警報音を止めると、発報元以外の警報音は止まります。  
●発報元の警報音は、発報元の警報停止ボタンを押すと止まります。

### 編集後記

冬囲いも終わり、今冬の雪はどうかと、そわそわしています。今年では会員の皆さんからDIY訓練に参加していただきました。今回は積雪時の地震をテーマに行いました。雪を見た時、地域の皆さんが訓練を思いだしてくれたらなあと思います。一年間ご苦労様でした。(M)

## DIG訓練に参加して

### 下条地区連合自主防災会会長

#### 生越誠一

去る11月20日に80余名が参加し、地域防災マップづくりを開催しました。

当日は、「NPOセーフティネットぼつさい」より指導を受け、先の中越地震が一月に発生したとの想定で、その時の被害と被害発生前の自助・共助災害対策をワークショップ形式で行いました。全員が被災経験を基に真剣に取り組み、グループ毎に発表を行いました。発表を通して、降雪時に大地震が発生した場合、先の中越地震発生の一ヶ月とは異なり、大惨事が予想され、参加者全員真冬の大地震の恐ろしさを再認識しました。

今回の防災マップづくりが、各自主防災会において、多くの住民が情報を持ち寄り、詳細な防災

マップを作成し、より実践的で

楽しみながら実施できる防災訓

練への拡がりに発展するよう期

待っています。



## DIGに参加して

### 遠藤 昭一

防災マップ作りの初段階として、図上訓練(DIG)を十日町市内4箇所で行いました。10名程度のグループに分けて、ワークショップ形式で意見を出し合い取りまとめてみんなに発表をする、方法は簡単だが実践ではなかなか上手くいかない。

そこで最初は主要役員で予行練習を行い2回目で全体役員に参加頂くという2段階で実行した。開会までの準備はほとんど私たちのメンバーで準備し少しでも有効に時間を使いたいとの想いである。

一通りの説明をしてまずグループのリーダーを決め書記役を決めてスタートをする。それぞれのグループで温度差はあるもののほとんどが時間内に終了するが、なかなか意見が出

ないグループもあり心ならず

もアドバイスをしてしまっ、本

当は出来るだけ自主的な意見が

必要なのですがアドバイスをする

ことで方向が出来てしまうこ

とは果たして良いものかどうか

疑問も残るが進行上止むを得

まい。

出そろった意見をまとめて発

表するところでは、さすが皆さ

んとも実力を発揮され素晴らしい

発表をされていました。

いくつかの段階を経てDIG終

了しますが実際はそれからが大

変である。

終了後各グループから出され

た発表資料をもとに文章上に取

りまとめたり整理をしたりす

る必要があります。出来る限り

皆さんの意見を反映させ、不足

部分も追加し完成させるわけ

だが、実に時間のかかる作業で

あります。



今回はその部分をほとんど尾身代表が時間を裂いて行っていた。膨大な資料作成作業と思われる。最終的にはその作業の結果を各地区の防災マップ参考資料として提供をしてDIGの訓練を終了となる。

次はその地区の関係者によって実際の防災マップを作成していただくわけですが、スタッフとして参加して、この作業に参加して話し合うことがいかに地区の役員の方への防災意識確認の掘り起こしになるかを実感しています。この作業をすべての地区に広げてこそ実際の防災都市作りではないだろうか。そんな思いをあらたに得ることが出来ました。

参加頂いた各地の役員のみならず御苦労さまでしたがこの資料が今後の地区の有効利用をされますことを祈念いたします。

又参加してくれたスタッフの皆さんお疲れさまでした、実践したDIGをもっと広く実施したいものです。



### 長岡市民の防災拠点

阿部正子

一月二三日「長岡市消防庁舎」とながおか市民防災センター」を見学してきました。2つの施設は隣接しています。

驚いたのは消防庁舎の基礎の免震構造です。地下へ下りて直接見せてもらいました。免震装置が入り組んでおり、建物が宙に浮いているようでした。

防災センターは平時時市民の交流の場として使われています。この日も子供たちが屋根付き広場で元気に遊んでいました。災害時にはこの広場が物資の集積場所となります。

「百聞は一見に如かず」実際に見るのが記憶に残る一番の方法だと思いました。



### 住宅用火災警報器について

根津良夫

皆様、突然ですが住宅用火災警報器の設置はお済みでしょうか？ご存じのように設置期限は平成二十三年五月三十一日となっておりますがまだの方はお早めにお願います。

ところで実際設置するにあたり、どんな機種にするか迷うところですが、最近は何となく